



摂食嚥下訓練の スキルアップ

知る+

どんな訓練？

どう実施するの？

どういう効果があるの？

— 嚥下表面筋電バイオフィードバック訓練を知る —

講師 柴本 勇先生 (聖隷クリストファー大学)

前回のセミナーでは、訓練が適切に実施できているかどうかを検証する実演をオンラインで実施しましたが、その際用いた機器（表面筋電バイオフィードバック機器：PAL METER）について、お問合せやセミナーのご要望をいただきました。

そこで今回は、表面筋電バイオフィードバック訓練のセミナーを企画しました。適応や方法、機器の使用方法など実演しながら詳しく解説していただきます。機器導入の可否によらず参加可能です。効果的な訓練の実施方法を学ぶ機会としてご活用ください。

◇内容

欧米では嚥下訓練補助訓練法として、「嚥下表面筋電バイオフィードバック訓練」が行われています。嚥下表面筋電バイオフィードバック訓練は、自身の筋活動をフィードバックすることでの筋力強化、安全な嚥下方法の確認と定着などを目的としています。また、訓練によって自身の食べ方や飲み方をコントロールすることができるようになれば、摂取食物・1口量・ペース・姿勢等が変わっても対応することができるようになります。自身の摂食の幅を拡げることにもつながります。すなわち、嚥下表面筋電バイオフィードバック訓練は、筋力強化に加えて、行動変容も含めた食べる行為の訓練ということも言えます。安全な食べ方を習得することによって、本人の可能性を高めることをも目標として考えられます。しかし、これまで我が国に専用の機器がなかったため実施できなかったセラピストが多くいました。本セミナーでは、現在日本国内で販売されている表面筋電バイオフィードバック訓練機器（PAL METER）を用いて、①訓練の対象と適応、②機器の使い方、③個々の方に対する調整方法、④電極の貼付場所、⑤選択する訓練プログラム等を解説し、専門職が積極的に本訓練方法を選択できるようになることを目標としています。多くの専門職が新しい訓練方法を学ぶことにより、摂食嚥下障害のみなさまに訓練の選択肢が増えることを願っています。

みなさまの挑戦と受講を歓迎いたします。

柴本 勇

11/15(日)

13:00～15:30

オンライン開催

<対象>

言語聴覚士 ほか

<参加費>

3,000 円

(テキスト代含む)

<お申込み>

締切 11/8(日)



<ホームページ>

